

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	柳田 綾香 (やなぎだ あやか)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	早稲田大学大学院 人間科学研究科修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 48 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	柳田綾香, 富田望, 内田太朗, 熊野宏昭
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	社交不安者へのビデオ通話カウンセリング内における自己映像の影響に関する文献レビュー
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
社交不安症 (Social Anxiety Disorder : SAD) の維持要因としては、自己注目がある (Clark & Wells, 1995)。自己注目とは、思考、気分、身体感覚など自身の内的な情報に注意を向けることである (富田・嶋・熊野, 2018)。自己注目に関連した SAD の維持要因として、否定的な自己イメージが挙げられる (Clark & Wells, 1995)。否定的な自己イメージとは、自己注目した際に想起された否定的な自己のイメージ像を正確なものだと認識することである (Hoffmann, 2007)。代表的な治療法としては、ビデオフィードバック (Video feedback : VF) がある。VF は患者自身のパフォーマンス場면을録画したビデオを患者本人に見せる方法であり、パフォーマンスに対する否定的な自己イメージが改善される (Rodebaugh et al., 2002)。カウンセリング場面で自身のパフォーマンスを画面に映すことに関連して、近年はビデオ通話を用いたオンラインカウンセリング (Videoconferencing Psychotherapy : VCP) が注目されている。VCP は、治療者と患者の両方の顔を映した状態で行われることが多いため、画面に映った自分の姿 (以下、自己映像) から何らかの影響を受ける可能性がある。この特徴は、VF において自己映像からフィードバックを受けることと共通すると考えられる。したがって、社交不安者にとっては、自分の顔を映した状態で VCP を受ける枠組み自体に、自己イメージの変化を促す効果を有する可能性がある。しかし、社交不安者の自己映像が社交不安症状や自己イメージに与える影響を調べた研究は少ない。そこで本研究では、自分の姿が社交不安症状に与える影響に関して先行研究を概観し、VCP 内での自己映像が社交不安者に与える影響について検討することを目的とした。先行研究による知見が少ないため、本研究ではナラティブレビューを行った。 先行研究から、ポジティブな影響として、VCP 内での自己映像は社交不安の軽減や発話時間の延長、否定的な自己評価の減少があり、ネガティブな影響としては、ネガティブ気分の増加や自己注目の誘発があるとの結果が得られた。効果を二分させる要因について、相手との関係性や相手からの反応・自己を客観的に観察する視点の有無・自己への注視時間の影響が考察され、自己映像は社交不安症状に影響を与えることが示唆された。本発表では、本研究の限界点を補うための実験研究の必要性があるという今後の展望や、社交不安症の特徴を踏まえた VCP の可能性についてディスカッションを行ったことにより、今後の展望が精緻化された。	

※無断転載禁止